

主日礼拝5月2日（日）

題 『あなたは、わたしに従いなさい』

テキスト：ヨハネによる福音書21章：20～23節

今日の聖書の個所には、復活されたイエスさまが、ペトロに3度にわたって「わたしを愛しているか。」と尋ねられた後のことが記されています。

◆イエスとその愛する弟子

20:ペトロが振り向くと、イエスの愛しておられた弟子がついて来るのが見えた。この弟子は、あの夕食のとき、イエスの胸もとに寄りかかったまま、「主よ、裏切るのはだれですか」と言った人である。

イエスの愛する弟子とは、弟子のヨハネのことで、聖書によれば最後の晩餐の時、イエスの隣にいたようです。また弟子のヨハネはイエスが十字架で死なれた後、母マリアと共に生活したとの言い伝えもあります。

エフェソの町にはマリアが晩年住んだといわれる家が今も残っており、カトリック信者の巡礼の地となっています。その近くにはヨハネの墓もあります。

興味深いことは、弟子のリーダーのペトロはヨハネのことをとても気にしていたようなのです。

もちろんイエスさまは弟子みんなを愛しておられたのですが

21:ペトロは彼を見て、「主よ、この人はどうなるのでしょうか」と言

ったのです。「そんなことは、気にしなくてもよいではないか。」と思ったのですが、どうでしょうか。わたしを含め、誰でも昔、一緒に過ごした人たち、同級生などが、活躍していたりすると、心が騒ぐというような経験などは誰にでもあったし、またこれからあることではないでしょうか。「どうしてあの人が」とか思ってしまうのです。

イエスさまはペトロに対して、また他の人のことを気にしてもんもんとした心を持っているキリスト者に対しても、語りかけてくださっているのだと思います。ペトロは、わたしたちは、自分に与えられた人生の道を歩いて行けば良いのです。「あなたは、わたしに従いなさい。」です。

主イエスはペトロを、またわたしたち一人一人を、単数形で「あなた」と呼びかけられるのです。イエスさまにとっては、一人ひとりが、「あなた」という大切な存在なのです。

誰かれではなく、「あなた、わたし」という人格関係です。

かつて、興味半分に、怖れながら隠れるようにいちじく桑の木の上からイエスさまが通るのを見ていたあの徴税人に「ザアカイ、急いで降りて来なさい。

今日は、ぜひあなたの家に泊まりたい。」とザアカイの名前を呼んで頼まれました。まわりの人がどうであってもペトロよ「あなたは、わたしに従いなさい。」ということです。

2019年7月に80代で召された長野県のある牧師は著書で「信仰とは神をイエス・キリストにおいて二人称で知る、つまり出会うことです。」と語っておられます。つまり、神さま、イエスさまとの、わたしとあなたという人格関係が重要なのです。

この「わたしに従いなさい。」という主イエス・キリストのことばを聞くと、わたしは、デイトリヒ・ボンヘッファーを思います。

ドイツ人の神学者で牧師であったデイトリヒ・ボンヘッファーは1906年2月4日生まれ。ご存じの方もおられますが、彼は第2次世界大戦中、独裁者ヒトラーに対して、祈りの末に、イエス・キリストへの服従（Nachfolge）の道を選ぶことから、ユダヤ人の大量虐殺を行っていたヒトラーの暗殺計画の組織に加わるのです。彼の役割は精神的な支柱、各国のエキュメニズムとの連絡、連合国側への情報提供、及び和平交渉などであったようです。ヒトラー暗殺が未遂に終わり、戦争が終わる前の年、1943年にボンヘッファーは逮捕され拘留されます。ドイツ降伏3週間前の1945年4月9日に絞首刑でこの世を去ったのです。

ボンヘッファーが死の前年1944年のクリスマスの時期に大切な家族に出した手紙に記した詩が、ボンヘッファー選集第5巻に記されています。それが現在教会で用いられている讃美歌21－469番です。本来はもっと長いのですが、讃美歌としてコンパクトにまとめられています。洲本教会でも時々礼拝で賛美していますし、コロナ禍の前に聖歌隊でも歌って来ましたので皆様ご存じだと思います。

讃美歌「善き力にわれ囲まれ」

- 1 善き力にわれかこまれ、
守りなぐさめられて、
世の悩み 共にわかち、
新しい日を望もう。
- 2 過ぎた日々の 悩み重く
なお、のしかかるときも、
さわぎ立つ 心しずめ、

みむねにしたがいゆく。

3 たとい主から 差し出さ
れる杯は苦くても、
恐れず、感謝をこめて、
愛する手から受けよう。

4 輝かせよ、主のともし火
われらの闇の中に。
望みを主の手にゆだね、
来たるべき朝を待とう。

5 善き力に 守られつつ、
来たるべき時を待とう。
夜も朝もいつも神は
われらと共にいます。

さて、ペトロはこの後、各地にイエスさまの名を伝えて、最後はローマで迫害にあい殉教の死を遂げたという話が残っています。イエスさまの言われたことが実現したのです。そしてペトロや伝道者パウロの働き、それに続く証人たちの働きにより、主イエスの名が世界に広がって行ったことを覚えたいと思うのです。

わたしたちも神さまとイエスさまにより「わたしとあなた」という人格関係に入れられ平安を与えられたことを感謝し、主イエスに従う心を持って、出会う人たちを大切にしながら日々を送りたいと願います。

◆イエスとその愛する弟子

20:ペトロが振り向くと、イエスの愛しておられた弟子がついて来るのが見えた。この弟子は、あの夕食のとき、イエスの胸もとに寄りかかったまま、「主よ、裏切るのはだれですか」と言った人である。

21:ペトロは彼を見て、「主よ、この人はどうなるのでしょうか」と言った。

22:イエスは言われた。「わたしの来るときまで彼が生きていることを、わたしが望んだとしても、あなたに何の関係があるか。あなたは、わたしに従いなさい。」

23:それで、この弟子は死なないといううわさが兄弟たちの間に広まった。しかし、イエスは、彼は死なないと言われたのではない。ただ、「わたしの来るときまで彼が生きていることを、わたしが望んだとしても、あなたに何の関係があるか」と言われたのである。